

スピーカーアキュライザーの導入(14) ーコンデンサーの追加ー

1. 始めに

前報(13)のスピーカーアキュライザーSPA-7の接続方法の変更に加えて、マイナス側のバナナプラグにコンデンサーを追加してみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を替えてみます。

スピーカーアキュライザーSPA-7の導入後の設定は前報(2)に始まり、前報(11)と前報(13)で接続条件を替えてきています。今回は、前報(13)からの追加の変更で、音質の評価は前報(13)からの変化の確認ということになります。

電解コンデンサーをムジカライザーML-6のマイナス端子に接続することは、FAL C90EXWのムジカライザーや安藤邸のシステムのムジカライザーおよび仮想アースの検討(12)で報告したJBL4350Aのムジカライザーで立証済です。

今回は、FAL C90EXWのスピーカーアキュライザーSPA-7で検討してみます。

前報(13)においてバナナプラグを装着していますので、マイナス側のバナナプラグの接続用の穴に電解コンデンサーの足を押し込みます。また、仮想アースの検討(12)で実施した電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに貼り付けることも実施します。



試聴音源は STAGE+とアナログ盤から選択します。

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

STAGE+では下記を再生してみます。

リサ・パティアシュベリ他のシューベルトの「鱒」は、前報(13)では、顕著な変化はありませんでしたが、今回の電界コンデンサーの追加と電磁波吸収テープ NRF-

005Tの巻き付けは、かなりの変化がありました。まず、パティアシュベリのストラディヴァリウスエングルマン始め、擦弦音のディテールが見え、表現力が増えています。コントラバスの響きも明瞭さを増し、ピアノの響きも豊かになっています。

マウリチオ・ポリリーニのベートーヴェンのピアノソナタは、ポリリーニの弾くFabbriniも、余韻や共鳴弦の響き、あるいはホール内の残響が明瞭になり、フレージングの表現が分かりやすくなります。

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイストのバッハのクリスマスオラトリオは、古楽器群の音が浮き出て、ソリストの歌唱の表現が分かりやすく、合唱がホール内に響き渡る様子がリアルです。

アナログ盤では、下記を試聴しました。

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

EMI AA 9117・C

フリードリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

ワーグナーのワルキューレは、オーケストラの音の分離と協和が向上し、ヴォリュームを上げたくなり、金管や低弦の迫力が増します。ソプラノやメゾソプラノの歌唱もリアルになり、位置関係も明瞭になります。

ヘンデルのメサイアは、まずは合唱の迫力が増し、ソプラノやバスが伸び伸びと歌います。弦のパートも艶やかにあり、通奏低音の音階が明瞭になりつつ響きも豊かになっています。

4. まとめ

スピーカーケーブルの出力端子のねじ止めからバナナプラグに交換した後、バナナプラグを利用した電解コンデンサーと電磁波吸収テープ NRF-005T の効果を認めました。

以上